



## IDF PRESS RELEASE

Brussels, 10th January 2018

### IDFプレスリリース

2018年1月10日、ブリュッセル発

#### 持続可能な食事における乳の役割

乳の環境影響と一般の受けとめを和らげる

#### **The Role of Dairy in Sustainable Diets: mitigating the environmental impact and public perceptions of dairy**

2018年2月1日-2日、スペインはセビリアで「持続可能な食事における乳の役割」シンポジウムが開催され、乳の環境と栄養に関するあらゆる側面が検討される予定である。

国連食糧農業機関（FAO）畜産政策担当官として勤務するアン・モットェット Anne Mottet 氏が、より全体的な立場から食糧保障と栄養における畜産および酪農の役割について、2030年までに達成する「持続可能な開発目標」への貢献を説明する予定である。

「多くの形態をもつ畜産業は、食糧システムの中で統合された役割を演じています。不毛地域の有効活用、不可食物を食用可能に変換、作物生産性への貢献、食用作物を高度な栄養とたんぱく質を多く含む食品に変換します。土地とバイオマス資源の定量化は畜産と畜産から生まれる食糧に関係しています。しかし、その一方で消費者の性向や家畜種への移行、気候変動の影響、ある種の飼料を人間の食用に改善する業界のプロセスを含めることによってモデルの能力を改善することにも関係しています。西暦2050年までに96億人に到達する世界人口を持続可能な方法で扶養するという課題研究の基礎情報になります。」

ヴィーム・フェルベーク Wim Verbeke 教授は、食品を選択する際の動機となる健康、栄養および持続可能性の役割を消費者の視点からプレゼンテーションする予定である。

このシンポジウムの参加者に多角的な消費者研究から得られた最新の知見が提供される予定である。これらの研究には消費者の受容性と態度を整理したうえで、乳製品の特徴に関連して栄養、健康および持続可能性の重要性が消費者にどのように理解され、購買意向や購買行動に至るかが含まれる。後者には、健康と持続可能性のベネフィットを求めた乳製品の支払意向も含まれる予定である。

「消費者が自分の健康と持続可能性から食品を選択する能力よりも個人的な動機が問題だという知見や、健康と持続可能性の両者を合算したものをベースにした可能性についてもプレゼンテーションされる予定である。さらに、消費者としての行動と市民としての振る舞いとの間にはギャップがある点を示し、個々の消費者が、一貫して市民として振る舞うことはないのは何故かについても考察する予定である。」と、ベルギーゲント大学農産物食品マーケティングおよび消費者行動学のフェルバーク教授は語った。

最後に、政策とコミュニケーションの意義と課題についても討議される予定である。

当シンポジウムのプログラムは <https://www.fil-idf.org/idfevent2018/>を参照ください。

完

翻訳：J I D F事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。